

第 48 回 津市子どもの権利条例づくり推進市民委員会 報告

日 時：2015 年 7 月 9 日（火）18：30～

場 所：市役所 6F 61 会議室

<参加者>（敬称略）

中村 潔（津市人権擁護委員協議会）、増田和正（津市人権・同和教育研究協議会）、金子由美（津市教育委員会事務局）、永合哲也（〃）、伊藤英明（津市人権教育課）、大川祐喜（津市人権課）、戸上喜之（津市子ども支援課）、小林泰子（〃）、村田有香（〃）、田部眞樹子（津子ども NPO センター）、竹村 浩（〃）、野口寛子（〃）、谷口美子（〃）、山口久美子（〃）、山下恵子（〃）、浅原直美（〃）、川喜田ひろ美（〃）

進行：村田さん

●前回に引き続いて

・戸上課長より報告

先の 6 月定例会で質問を受け答弁した。津市の結論としては「子どもの権利条例」についての考え方、方向性については、子育て政策にもとづいた施策をしていく。健康福祉部の考え方、子どもの権利と児童虐待、平成 2 年に比べて 6 倍になっている、国として平成 10 年児童虐待防止法ができた。児童福祉法の改定を経て津市の役割が明確になった。子ども子育てに関する関係法令、子どもの権利を守っていく（国）地方公共団体の責務を求めてきている。平成 22 年以降少子化対策に向けて、国が施策重視にシフトしてきた。県の子ども条例でも目的に向けた市の役割が定められている。人的配置など子ども支援の体制が充実した。平成 26 年機構改革があり、体制が充実された。津市の考え方を説明している。

・竹村さんより戸上課長の話を止めて質問

子ども権利条例づくりをどうしていくか。ここを終息させるには納得する必要がある。合意したい。行政説明を聞く場でも聞く義務もない。津市の次世代育成行動計画では、条例づくりをすると方向を出していた。条例づくりをすることを津市は選んだ。そのことに対してお互いに責任をとりあっていきたい。三重県子ども条例は理念条例である。津市はいったん条例をつくると決めた。子ども委員会も継続している。次世代育成行動計画は終わったが条例づくりを 5 年で区切るとは言っていない。

・条例づくりについては各分野別に子どもの権利を基本に考える。対応だけでは収まらない。対応に切り替えたのなら明確にしてほしい。方向転換をしなければいけない時はきちっと誤って一緒にやってみましょうと合意をとる。うやむやにしない。自然にはシフトしない。参画してもらっている団体に申し訳ない。このままでは整理できない。新しい出発ができない。課長に迫るのは重いが責任を果たしていかなければいけない。議会での質問は津市の考え方だと思う。津市が考え方を変えたというより津市を取り巻く環境が変わったことで変化しただけ。施策重視になった。課長の思想は上から下で、国→県→津市。大枠は国が出した方向にそっている。

・施策を重視していきたいので、条例づくりから撤退したいと明言してほしい。市は、今はし

ないが「子どもの権利条例づくり」に向けてはすすめていきたいと。影響は受けるが自分が主体として決める。子どもたちが主体者になる子どもたちをつくっていきたい。20年後を見据えて考えるのが条例づくり。子ども参画が必要。条例をつくることは子どもを守ること。課として訴えてほしい。子どもたちの未来に責任をもつことが条例。

まとめとして、津市が施策に活かすことに変わった。建設的に次にすすめるために平行線の状態が終わらせる。子どものことを担当している課ではなく、市民から言うことが残念。

- ・市としては条例をつくっていくことは大事。今は具体的な施策を丁寧にしていく。シャッターガラガラで解散にはしたくない。
- ・津市の方向が出ている。子ども委員会のことが気になる。条例づくりではなく、子どもの権利学習としてはやっていきたい。
- ・区切りをつけたい。5か年計画としては終わっている。期間を区切らなくても条例づくりに関わっていくのか。将来を見据えて市として関わっていくのか答えてほしい。後期行動計画のまとめができていない。
- ・方法論として子どもの権利条例はあるが、津市は施策をつくることを推進していく。施策を重視する考え方でやっていきたい。健康福祉部としては関わるのは難しい。
- ・子ども施策はどこがするのか。子育て推進課に変わってほしい。施策に企画立案もする。津市としては、条例づくりは停止するという考え方。一緒に作り上げていくことを考えたが無理なら無理と言って欲しい。
- ・一緒に作ってきたものとしては一緒にやっていきたい。
- ・市の方向性が出た以上思いには添えない。組織の人間として今後もない。立場上個人的な思いは申し上げられない。
- ・とりあえず、今回市民委員会は閉じて、新たに条例をつくる時に声をかけさせてもらう。人が変わっても、条例をつくることは変わらない。(仕事をする基になる)
- ・充実させたと津市は言っているが失望した。子どものことの何が大事されているかを考えてほしい。子ども総合支援室と一緒にしてきた。共に作り合ってきたメンバーが異動して切れた。残っていたメンバーを外したことは残念。一緒に作り合ってきたメンバーである。
- ・次の世代の子どもたちが生まれてきてよかったと思えるようにしたかった。結果的に残念だったが、ありがとうございました。
- ・子ども委員会をどうするか、子どもには説明する必要がある。

●市議のたより

- ・市議のたよりに市民委員会についての記載がありました。

●子ども委員会の報告

アンケートとは違う。少人数で継続しているからこそ出てくる子どもの声がある。

●市民委員会の終息に向けて

- ・こども支援課と事務局津子ども NPO センターでコア会議をして解散に向けて実務作業をおこなっていく。